



石炭審の答申を前に、新聞各紙は石炭情勢について報道。急速にたたかいを強めなければならない。

# 人並みの賃上げめざし

## 真の石炭政策確立へ

春闘要求と闘争方針を決める炭労第一〇九回臨時大会は十一、十二の二日間、東京・池之端文化センターで開かれ、賃上げ一方当たり五百三十円、半額金二千五百万円などの災害要求とたたかひ方を決めることも、大会当日提案となった。第八次石炭政策闘争の中間総括と今後のたたかひ方を決めて終わりました。

大会をとりまく情勢は、昨年来 階となってきた。この重要な情勢を反映して、開会あいさつに立った橋本委員長は「炭鉱労働者を産炭地住民の生活の拡大、国内炭不要論の表面化など、七月・八月に出される石炭審(石炭鉱業審議会)の答申を目前にひかえて、きわめて重要な段全力を傾注すべき」と訴え、

各来賓も全力をあげて取り組む決意を表明しました。一号議案の春闘方針では、きびしい情勢だからといって地下産業で働く労働者が毎年低額賃上げに抑えられていることへの不満や、

他産業との格差を縮小、解消するためにどうたたかひを進めるのかという質問、意見が出されました。要求額は提案どおり一方当たり五百三十円(七パーセント)に決まりました。

### 炭労109回臨時大会終わる

うーき

3月14日	荒尾春闘勝利決起集会
16日	大牟田校区一斉行動
17日	石炭政策確立ヒラ配布
18日	第十回委員会

19日	本所安全会議
19日	有明鉱安全会議
22日	保安委員会
25日	港務所安全衛生委員会
26日	三川鉱安全会議
26日	大地評審論討集会
30日	福岡春闘勝利決起集会

## すべての港務所労働者の声 労働条件低下させるな

### —港務所が第2次労調提案—

三池港務所は、第二次労働条件調整について三月三日、三池労組に提案しました。主旨説明によると、三池港務所は昭和四十八年に三池鉱業所と分割して親会社の三井鉱山に吸収され、その後、船、セメント、コークスなどと合併しましたが、労働条件については第一次労働条件調整で部分的に統一されたものの完全統一にならないまま現在に至っており、今後の事業形態の変化に合わせて労働条件の統一が必要になったとしています。

- 労働条件調整の内容は、①年間労働時間、休日および交替制、②雇用制度、③退職金制度、④月例給与制度、⑤賞与、⑥表彰制度、⑦資格制度、⑧人事考課制度、⑨研修員制度、⑩解雇制度、⑪非稼働制度、⑫懲戒制度、⑬休暇制度、⑭災害補償制度、⑮通勤災害の取



港務所交渉の模様

り扱い制度、⑯業務外傷病欠勤者の取り扱い制度、⑰会社贈与金制度、⑱社内預金制度、⑲持家制度、⑳旅費制度、㉑共済金制度、㉒福利厚生など、一部現行通りの部分を除いて全般的なものとなっています。この提案によって、労働条件は大きく変わることにになり、重要な

内容が含まれています。また、三池労組が要求していた労働条件、労働協約、福利・厚生諸要求については、独自の前進した回答はなく、この提案にかえるというものです。提案を受けたあと、①時間短縮(休日)問題、②特別社員と定年延長問題、③退職金問題、④給与制度問題、⑤調整財源の賞与取り崩し問題、⑥現場給与(福利・厚生)問題などについて質問しました。

### 要求額算出について

9,699円 × 7% = 679円  
(実績本人給)  
679円 ÷ 1.2797 = 530円  
(ハネ返り係数)  
ハネ返り係数はS60年9~10月の実績による5社平均。  
9,699円 ÷ 7,579円 = 1.2797  
(実績本人給) (展開本人給)

### 短信

#### ヤマとマチを守る 中央集会と行動

三月十三日、現有炭鉱の存続などを第八次石炭政策の柱にさせるために、石炭協が主催して東京・池之端文化センターで「ヤマとマチを守る」第八次石炭政策確立中央集会を開きました。三池労組からは炭労大会に出席した中原組合長と芳川組幹部が参加しました。集会終了後は二班に分かれ、一班が通産省、資源エネルギー庁、衆議院石炭特別委、参議院エネルギー対策特別委、石炭審政策部会検討小委員会などに陳情、二班は東京都内五カ所でカプセル入りの石炭サンプルとヒラを配布して支

#### 三井鉱山が九州事務所を設置

伝えられるところによれば、三井鉱山(小松原俊一社長)は三井系企業の再生と地域浮揚をはかるために、大牟田市に九州事務所を設置することを決め、四月から開設するもよう。大牟田地区の再開発論議が高まる中で企業側が窓口一本化をめざすもの。

#### 休刊のお知らせ

本紙次号(四月一日号)は編集担当者が炭労代表として中国煤工会との交流のため訪中いたしますので休刊させていただきます。ご了承下さい。

#### 故久保清氏追悼 春闘勝利決起集会

とき 三月二十九日(土) 午後五時十五分  
ところ 四山事務所前広場

※当日は三番方を除く全組合員と主婦会員の参加を要請します。(録音持参)

## 地底

は、九日に「春一番」が吹き、十二日には中国からの春の使者「黄砂現象」が見られた。寒さ続きで遅れていた梅の花も、移動性高気圧と穏やかな天気、適当なお湿りで満開の花ざかり。いよいよ春...

中曽根首相の諮問機関、国民生活審議会の調査結果「国民生活指標」によれば「日本人の生活水準は欧米先進国を上回るほど向上したが、半面、労働時間が長いことや自殺の急増、住宅の狭さなど生活のゆとり欠ける」と指摘。つまり生活の内容、質が悪いこと。当たり前の話といいたいが、さて、どう対処する。

公定歩合の引き下げによって、預貯金金利が三十一日から〇・五%下がる。二月にも〇・五%下がっているから、今年になって一%引き下げた勘定。いよいよ低金利時代の到来で、国民にとってははげしい預金の目減りは痛い。結局のところ、円高と不況のしわ寄せを押しつけられた格好で、もうけるのは大企業だけか。

「二十一世紀は灰色の世界。なぜならば、働かない老人がいっぱい、いつまでも生きておって、働く人が食うものが少なくて負担が多くて苦しい」使った話はだれでもできるが、集める方が難しい。稼ぐことのできない人が使う話をする資格はないの。ご存知渡辺通産相の暴言。首相は、逆説的、というが、さて...

私鉄がすでに交渉に入った春闘。JOCの集中回答、私鉄の第一波スト予定日四月九、十日から中旬が大きな山場となる。「昨年の実績(五%)をめぐる攻防」などといわれるが、円高フレ傾向の中で、内需拡大のための賃上げこそ焦点。水準に大きく水をあげられた炭鉱、きびしいたたかひが春闘にしなければ...